

エコユニット活動報告書 (2020.7~2021.6)

<エコユニット情報>

ユニット名	エコてく。KCT		ユニット No.	10010030
構成人数	全 体 (※1)	20	所属する エコビープル	
母体となる組織 (※2)	企業 (団体) 名	株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー		
ホームページ	URL	http://www.jpckt.com/		

▲活動報告 (1)	
【活動名称・タイトル】	
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業 (長崎) 及び 島原半島世界ジオパーク 視察	
【活動の時期・期間】	
2020年11月21日(土)~22日(日)	
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います	
<p>参加人数:4人</p> <p>世界遺産である、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、産業遺産の視察会を実施、合わせて、島原半島のジオパークの見学を行いました。</p> <p>「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教が禁じられている中で2世紀半にわたり密かに日本独自の信仰形態が育まれたことを物語る「潜伏キリシタン集落」と、新たな信仰の局面を迎える契機となった「大浦天主堂」など12の資産で構成されています。世界的にもまれといわれる、禁教下において形成された潜伏キリシタンの独特な信仰文化となります。また、産業遺産については、幕末から明治期にかけて、日本は西洋の幅広い知識と技術を吸収し、製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業における急速な産業化・近代化を達成しました。日本が西洋以外の地域の中で先駆けて産業の近代化に取り組み、約50年という極めて短い期間に産業国家としての地位を確立したことは、世界史上において特筆すべき出来事でした。これら一連の流れを時間軸に沿って、現存する建造物等によって証言しているのが、「明治日本の産業遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」です。「明治日本の産業遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の顕著な普遍的価値は様々な点から評価されています。急速に近代化を進める中で、日本の文化的伝統を基礎として日本独特の産業文化が発展したこともそのひとつです。江戸時代、武士階級だった人々は明治維新とともに身分や帰属する組織を失いました。彼らは武士道精神を宿しながら、西洋の技術に畏敬の念を持ち、積極的に技術を取り入れることを選択します。それによって西洋の技術を吸収するだけでなく、それまで継承されてきた「匠の技」や文化力が素地となって、日本独特のものづくり文化が発展したのです。その代表的な例が長崎造船所といえます。日本における急速な産業化は西洋諸国による植民地化や経済支援によるものではありませんでした。自らの意思において西洋の技術を取り入れ、日本の伝統的な技と組み合わせ、日本に適した技術を開発することで成し遂げたのです。中でも西洋文化の窓口だった長崎は近代化を支えた技術の発信地でした。長崎市内には、後に日本を世界的な経済大国に押し上げる原動力となった産業革命遺産8資産が残っています。</p>	
【期待する活動の効果】	
<p>人類の歴史や、地球の雄大さを知るヒントとなるのが世界遺産です。2019年時点で1,000件以上の世界遺産があり、人種や性別、信仰や価値観を問わず、誰もが素晴らしいと感じる価値を持ったものが、世界遺産に登録されます。一方で、紛争や密猟、都市開発、自然災害により破壊の恐れがある世界遺産の数は増え続けており、SDGsではそれらの世界遺産の保全強化を目標に掲げています。世界遺産は、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきたかけがえのない宝物であります。KCTも地球に住む一員として、現地にて実際の世界遺産にふれ、実体験にもとづき持続可能な社会の開発に主体的にかかわっていくことを再認識させられた。</p>	
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】	
九州地区は、世界文化遺産と世界産業遺産とジオパークなどの自然環境と域内で共存する形で存在している。	

歴史遺産を保護すると主に、豊かな自然遺産の保護も行われており、複合的な観光資源となる。各遺産や自然環境を守ることが、九州地区の未来につながると考えられる。各遺産や自然環境は、開発が進むエリアとなり合わせであり、以下に保護してゆくのが重要な取り組みであると再認識させられた。今後は、保護してゆく手段の一つとして、ICT化がさらに進んでゆくと思われる。当社の社訓である豊かで調和のとれた社会の構築に向け、自社ソリューションが社会の課題解決の一助となるように支援を行ってゆく。

【実績】
 今回の取り組みは初めての取り組みですか？ 継続した活動ですか？

① 初めて ② 継続(年 月頃から)

【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。
 N/A

▲活動報告（2）	
【活動名称・タイトル】 オフィスのエコ活動	
【活動の時期・期間】 2014年1月～現在	
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います クリーンオフィス、グリーンオフィスを社員一人ひとりが実践する。活動内容は、以下の通り。 ・本社及び各事業所メンバーによる、ペーパーレス化の実施。 ・紙コップを使用しない。 ・コピー用紙を使用しないで、PDF化。 ・社内用書類の印刷簡素化(縮小印刷等) ・使用したコピー用紙の再利用。 ・観葉植物設置(職場内緑化)。 ・離席時のPCOFF対応(節電)。 ・ISO14001の取り組みに沿った、活動の可視化。	
【期待する活動の効果】 ・紙使用量の削減(森林伐採削減) ・消費電力の削減(発電量減少) ・目の保養(健康増進)	
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】 本社勤務、現場勤務と勤務地に違いがあるため、全てのエコてく。メンバーに浸透していない。 今後は、各現場にエコてく。サブリーダー(現場リーダー)を設け、本社勤務メンバー同様の運用とする。	
【実績】 今回の取り組みは初めての取り組みですか？ 継続した活動ですか？	
① 初めて ② <input checked="" type="checkbox"/> 継続(2014年1月頃から)	
【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。 N/A	

▲活動【指定テーマ】
【活動名称・タイトル】

エコピープルを増やすための活動（eco検定普及活動）

【活動の時期・期間】

エコピープル活動(加入時期)から継続的に実施

【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います

当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーは、2021年6月時点で20名になります。メンバーは、eco検定を含む環境に関連する資格試験の取得による、環境学習を積極的に行えるよう、該当資格の取得に補助や人事考課のプラス評価などの仕組みを取り入れ、「エコてく。」メンバーが主体的に向学心を持てるように取り組んでいる。(現在、4名がeco検定を合格)また、「エコてく。」未参加のメンバーも社員全員及びその家族については、課外活動に参加できるように支援、広報活動を行う。

【期待する活動の効果】

環境に関する知識の醸成と、そこから当社の掲げるエコ活動への動機づけと日常生活におけるエコへの意識の向上とエコエバンジェリストとなることを期待している。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組みについて】

資格取得しやすい環境作りが、会社全体で行われる必要がある。特に、持続可能な社会を目指すために、SDGsの取り組みを社内に浸透させていく必要がある。会社主体で、SDGsの活動イベントを開催して、啓蒙活動や動機づけを行っていく必要がある。また、資格試験に合格するだけでなく、継続的な学習として、世界自然遺産の見学やエコツアーリズムなどに参加することで、発展的学習を図ってゆきたい。また、本年度は、社員にSDGsのピンバッチを配り、自社の取り組み含め、社外にもアピールをするように心がけた。

【実績】

今回の取り組みは初めての取組みですか？ 継続した活動ですか？

- ① 初めて ② 継続 (2010年4月頃から)

【ホームページ】※参照するページがあればURLをご記入ください。

【活動名称・タイトル】

★来年の計画や活動テーマ、抱負。

本年度は、コロナ禍のため、社外活動が大幅に制限された年であった。そのため、毎年実施している、沖縄でのサンゴのボランティアや、湘南海岸林の保護作業等、実施することができなかった。一方で4半期に一回行っている、社内でのエコに関する情報共有会は、オンラインにて実施し、社内での情報連携に努めた。なお、次年度は、上記活動を継続的に行うとともに、1.SDGs 事業者としての取り組みを拡大する、2.地域ボランティア(貢献する) 3.環境に関する教育(広める) 4.環境に関する知識の醸成(学ぶ) 5.グリーンオフィスを推進(実践する) 6.個人で実践する の6つの活動分野を深化させ、特に地域ボランティアでは、After コロナになったら、社員参加型の地域貢献活動などを通じて、社員の環境活動への動機づけや気付きなどを醸成してゆき、社員のリベラルアーツ教育に一助となるような活動とする。また、本年度は課外活動(他のボランティア参加者との共同作業)を積極的に行い、持続可能な開発目標の達成を図って行く。なお、当面は、With コロナの環境下、対面活動については、開催の有無、十分な安全の確保ができるかなど判断して持続可能な発展(経済との両立)が推進できるように実施するものとする。